事業の実績
６月３、１８日　ゲスト講義 ７月９日　ゲスト講義 草刈り共同作業 稲刈り体験 講話及びゼミ生との意見交換謝礼
具体的な成果
《1》2014年の耕作断念地の整備（草刈り、整地、圃場づくり）、協同農園の立ち上げから関わりを継続してきたオーガニックファームうしろだに（「みさと土といのち協働農園：内田敬介代表）における農業体験（田植え、生育調査、稲刈り、脱穀、試食）、圃場とビオトープの生き物観察（定置観測装置の設置を含む）を、協同農園、地元自治会、「水と緑WG(両生類、昆虫、植物の専門家集団)」の協力・指導のもと行い、コロナ禍による様々な制約を受けつつも、有意義な体験と同時に継続的な「生き物観察」によって、美里町小市野地区における里山（SATOYAMA）の多様な生態系についての学びを実地で学ぶことが出来た。　学園大学大江キャンパス（付属図書館前、」12号館、11号館、研究棟に囲まれた空間）を一つの生態系と見立てて活用した調査にも着手し、身近日常的な環境における新たな発見・気づきを得ることが出来た。 《2》地域力の醸成と都市農村交流の深化をめざし、全国の他地域に先駆けてスタートした、美里町におけるフットパス事業の次の展開を模索する試みとしての「縁側カフェ」の立ち上げ以降、継続的に企画、事前研修、試行に参加することで、地元住民（自宅の庭先を活用した縁側カフェのオーナー）、フットパス研究所、地域おこし協力隊、自治体担当者などのステークホルダーの役割、関係性を学ぶことが出来た。また、カフェ開催当日の、訪問者受付準備、運営体制、訪問者との「交歓」について参与観察の機会を得ることが出来た。 《3》昨年度、新たにスタートしたフットパスガイド養成講座（初級、中級、現場研修）に参加する機会を通して、卒業後も美里町の様々な事業に継続的に参加・参画するための足がかりを作ることに努めた。 《4》新型コロナ禍や2020豪雨災害に翻弄され、様々な制約を受ける中での1年間の事業であったが、美里町のパートナーと継続的に連絡を取り合い、COVID-19の感染拡大リスクを極力ゼロに近づけるための方策を探る過程で、“One World, One Health”の理念に沿った生き方や暮らしと地域社会の有り様について、共に学び、共に考え、共に行動することが出来た。WithコロナからBeyondコロナの時代への転換期において、クマガク生として、どのようにして地域連携とサービスラーニングの取り組みを深めていくかについては、『脱成長』 と『ケアに満ちた生活』をキーワードとして継続的な取り組みをさらに深めていきたい。